

交代時の選手の心理についての研究

－サッカーとバスケットボールに着目して－

松野彩未（静岡大学）

1. 目的

交代でコートの外に出た選手に対する声掛けの有効性、部活動の種類における選手交代時の心理的違い、交代でコートに入った選手の理想的なプレーへの臨み方、の3つを目的とした。

2. 研究方法

1)対象者:S 大学体育会サッカー部員 27 名、同大学体育会バスケットボール部員男子 16 名、女子 11 名、計 54 名。

2)調査方法:フェイスシートと、スポーツ心理学専門家とともに相談し作成された 24 項目の質問を、対象者に web 上で回答してもらった。

3)分析手続き

記述式質問がそれぞれテキストマイニングされた。その結果をもとに抽出語を設定し、数量化Ⅱ類が行われた。

3. 結果と考察

1)目的 1:選手への声掛けの有効性

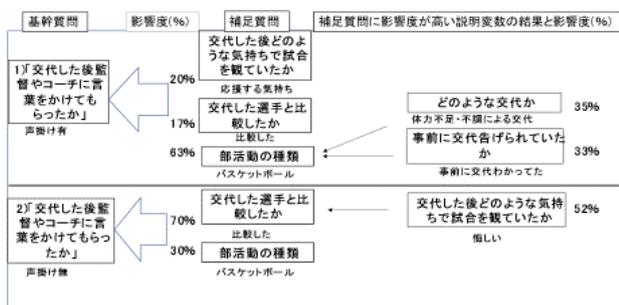


図1 目的1: 交代した後の選手への声掛けの有効性

図 1 は、目的 1 について数量化Ⅱ類をした結果をまとめた図である。これらの結果から、先発選手として出場し交代した時、交代理由が明らかであれば、監督やコーチからの声掛けがなくても選手は交代に納得し、応援する気持ちで試合を観ていたという傾向があったと明らかになった。このことから、監督やコーチからの声掛けは、交代理

由が明らかでないとき、選手が交代に納得していないときに行うとよいことが考えられた。

2)目的 2:部活動の種類による心理的状況

先発出場途中で交代させられた時、バスケットボール部はサッカー部に比べて、悔しいという気持ちを持ち、サッカー部は、チームを応援する気持ちが強いという傾向が示された。これは、サッカー部は、先発選手として出場した際に交代したらもう出場できないため、切り替えて仲間を応援するという気持ちになる傾向があるからと考えられた。しかし、バスケットボール部は、再出場できる可能性があるため、悔しい気持ちが残しやすい、という傾向があるからと考えられた。

3)目的 3:交代でコートに入った選手の理想的なプレーへの臨み方

途中出場した時、心身共に準備ができていること、積極的な気持ちであることを意識すると、良い結果を残せる傾向があると明らかになった。これは逆も然りである。このことから、途中出場した時にいい結果を残すには積極的な考えを持ち、心身共に試合に向けて準備をすることが大切であると考えられる。また、ケガや体力不足、不調が原因による交代は、突発的であるため準備ができずに交代してしまう可能性がある。そのため、試合を観ているときから、次に自分が出た時のことを考えて準備をしておくことも大切である。

4)総合考察

目的 2 の結果と、目的 1 の結果を組み合わせると、バスケットボール部は、先発出場して、選手交代をした後、悔しい気持ちになってしまう傾向がサッカー部よりも強いため、監督やコーチは指導方法をバスケットボール部に対する時とサッカー部に対する時では変えることが有効であるといえる。